

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)大阪府食品流通センター新A	階数	地上3F
建設地	茨木市宮島一丁目	構造	RC造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	300 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,920 時間/年(想定値)
建物用途	物販店,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年12月 予定	評価の実施日	2019年10月7日
敷地面積	13,202 m ²	作成者	山根 智行
建築面積	7,498 m ²	確認日	2019年10月8日
延床面積	20,790 m ²	確認者	槻尾 輝雅



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値	138
②建築物の取組み	46
③上記+②以外の	92
④上記+	138

(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.9

音環境	2.6
温熱環境	2.6
光・視環境	3.0
空気質環境	3.6

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.2

機能性	3.1
耐用性	2.9
対応性	3.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.4

生物環境	2.0
まちなみ	3.0
地域性・	2.0

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.3

建物外皮の	3.1
自然エネ	3.0
設備システ	3.8
効率的	2.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.1

水資源	3.4
非再生材料の	3.1
汚染物質	3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.3

地球温暖化	3.6
地域環境	3.0
周辺環境	3.2

3 設計上の配慮事項		
総合 流通業務地区内の良好な景観を形成するため、地区内の他の建物との調和に配慮した計画とした。		その他 特になし。
Q1 室内環境 化学汚染物質について、内装材には全面的に規制対象外、告示対象外の建材を採用している。	Q2 サービス性能 更新必要間隔の長い内装材、配管材料を採用し建物耐用性に配慮するとともに、空間にゆとりを持たせた計画としている。	Q3 室外環境(敷地内) 特になし。
LR1 エネルギー 高効率設備機器を採用し省エネルギーに配慮している。	LR2 資源・マテリアル 節水機器を採用し省資源に配慮している。	LR3 敷地外環境 LCCO ₂ 排出量削減に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

H31-0095

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】	建物名称	(仮称)大阪府食品流通センター新A棟建設工事						
	建設地	茨木市宮島一丁目						
	用途/区分	物販店 工場						
【評価結果】	CASBEE 総合評価						B+	
①	CO2削減						4	
②	みどり・ヒート アイランド対策						2	
③	建物の断熱性						3	
④	エネルギー削減						4	
⑤	自然エネルギー直接利用						—	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—	—
	エネルギー消費量の報告						報告しない	
【評価項目】								
	項目	評価内容				スコア	評価	
①	CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価				3.6	4	
②	みどり・ヒートアイランド対策							
	生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価				2.0	2	
	敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価				2.0		
	温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価				3.0		
③	建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価				3.1	3	
④	設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価				3.8	4	
⑤	自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価				3.0	—	
	エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。				報告する 報告しない	報告しない	
その他								
		技術の名称			考慮事項			
	先進的技術の導入							
	特に配慮した事項							